

合唱活動に関する調査研究

－実際の合唱活動に対するアンケート調査を通して－

水田 恵三*・今井 邦男**・佐藤 淳一*・吉田 功弥***

A survey study on the chorus

Mizuta Keizo, Imai Kunio, Sato Junichi, Yoshida Kouya

本研究は合唱を愛好する人たちが、自分や自分たちについて、何を考えどのように感じているか、その目的や価値観、喜びや感動の所在、継続の意欲や展望などをアンケートで調査しようというものである。質問紙の調査対象は東北6県。各県連の中学、高校、大学、職場、一般、おかあさん各部門の合唱団団員とし、各県350部ずつ各部門の加盟総数に応じて依頼した。依頼総数は2100部であり、回収標本数1249部であった。調査実施期間は2008年9月～11月である。第1部では合唱活動とそれに関する自分についての評価が主題である。ほぼ全ての項目で積極的に前向きに評価している傾向が見られた。さまざまな項目で12年前よりポジティブなポイントが高くなっている反面、人間関係への対応や、活動の力点について、むしろクールで個人主義的な方向への傾斜を見ることができた。また合唱を始めた時期、動機などと共に、感動の瞬間など、貴重な資料的意味の高い結果が得られた。

キーワード：合唱 調査研究 満足感

(問題)

古代ギリシャ語のコロス (choros) に由来するコーラス (合唱) は、人間の芸術活動としては、おそらく最も古い、基本的なもののひとつといえる。そして現在も世界中さまざまなところで、人々はそれぞれの歌やコーラスを楽しんでいる。共に歌うことに多くの喜びを見出し、その喜びは深く多様で、その表現力やコミュニケーションの機能は、言葉の力 (時にはそのパリア) を一瞬にして超えしまうこともある。

しかしその喜びや感動や機能を、音楽に即して解明しようとする、元来言葉を越えたところにその本質があり、また厳密に言うとはひとりひとりの音楽と心のあり方は異なるので、その研究は大変難しい側面がある。しかし一方で、日常的にさまざまなあり方で楽しまれている合唱活動とそのあり様について、何らかの鳥瞰図を得たいものだと常々思っていた。本質を捉え且つジェネラルな俯瞰は、今後の発展にどうしても必要だからである。

東北各地でも多くの世代が、さまざまな合唱活動を繰り広げている。本調査は合唱を愛好する人々が、自分や自分たちについて、何を考えどのように感じているか、その目的や価値観、

2010年4月10日受理

* 尚綱学院大学 教授

** 尚綱学院大学短期大学部 保育科特別教員 教授

*** 全日本合唱団連盟東北支部

喜びや感動の所在、継続の意欲や展望などを調査しようというものである。この調査によって集団活動としての合唱活動が、東北各地の学校生活や社会生活にあって、どのような意義と働きを持つのかを明らかにし、今後の学校教育や社会教育、また生涯教育（生涯発達）における実践の指標を得たいと思う。

1996年の社団法人全日本合唱連盟東北支部創立50周年の折に、我々は今回と同様の目的によるアンケート調査を行った。アンケート依頼総数66 + a（各県の中、高、大、職、一の各部門合唱団）、1980名、有効サンプル数1931による調査報告は、東北支部50周年記念誌に掲載されている。アンケートは、第Ⅰ部で、クラブ活動（合唱活動）全般と、それに関わる自分についてどう評価するか、目的、期待、指導者、レパートリー、満足度などを聞き、第Ⅱ部では、「合唱するわたし」について、始めた動機、感動の場面、なぜ続けるかなどについて第一部より踏み込んだ質問を試みた。その結果「歌うことが好きで、技術も向上したい自分は、合唱活動を通じて多くの価値を発見しつつ、何より『人との出会い』を大切に、今後も合唱を続けていきたい」という、ポジティブで極めて堅実な動向が多数を占めていることが分かった。

今回の質問紙は、若干改良を加えたが基本的には1996年と同じものである。調査対象も前回をモデルにして、同様の抽出方法によった。このことによって新たな対象による調査であると共に、1996年との比較も可能になるように意図した。調査対象は前回の対象に各県から若干のおかあさんコーラスを加えた。

(方法)

質問紙調査地域は東北6県。合唱連盟東北支部の加盟団体数は541団体、団員総数計12,000名（2008年12月）であるがそのうち各県連の中学、高校、大学、職場、一般、おかあさん各部門の合唱団団員を対象とし、各県350部ずつ各部門の加盟総数に応じて依頼した。団体の抽出は各県連理事長に一任した。依頼総数は2,100部であり、回収標本数1,249部、有効回収率59.5%であった。調査実施期間は2008年9月～11月であり、標本の内訳は 中学222（884）、高校521（515）、大学30、職場29、一般、おかあさん421（大、職、一般492）である。（ ）内数字は1996年の調査数である。

質問紙の構成

本調査で使用した質問紙の構成は、まず調査対象者の属性を聞き、第Ⅰ部では合唱団への満足度、合唱の目的（目的、どのようなメンバーになりたいか、打ち込んでいること）、合唱活動上の悩み、興味を持っているジャンル、合唱活動の満足度等を聞いている。第Ⅱ部では合唱をいつ始めたか、動機、感動合唱活動を続けている理由、コンクールを続けている理由、コンクールへの理由、今後の合唱団についてのこと、今後の夢などを尋ねている。質問項目は30項目、回答形式は、5件法、複数回答、自由回答など質問内容に応じて様々である。

(結果)

結果は、1996年と比較して大きな変化があったもの、2008年に顕著な特徴があったものに限って取り上げた。

まず、質問順序としては後の方であるが、1996年と2008年の調査対象者のコンクールの成績を尋ねた結果が表1である。

表1 コンクールの成績はどの程度か

	1996年	→	2008年
県大会出場	828 (68%)	→	164 (15%)
東北大会出場	367 (30%)	→	649 (61%)
全国大会出場	16 (1%)	→	257 (24%)

2008年のデータでは東北大会以上の割合が多くなっている。従って、1996年と2008年のデータのとりわけ合唱活動に関しては単純に比較ができないことが示されている。2008年においては調査団体を各県連に任せた結果よりコンクールに対して熱心に活動している団体を選択したものと思われる。

第I部 クラブ活動（合唱活動）とわたし

ここでは、クラブ活動（合唱活動）と、自分の関わりについて全般的にどう評価するかを聞いている。目的、期待、悩み、レパートリー、指導者、満足度、自己評価などである。

- (1) 自分自身やクラブに関する1～32の項目について、それぞれ「全くあてはまらない」から「非常にあてはまる」までの1～5の段階で回答を求めた。この質問項目はPM理論にしたがって、集団活動優位と、集団の人間関係優位の項目を交互に尋ねている。

表2 合唱団への満足度

	1996年	2008年
1. 私はこのクラブ（サークル）にとってかけがえのない存在である	3.4	3.2
2. 練習は厳しい	3.0	2.9
3. 和気あいあいとやることが求められている	3.9	3.4
4. 指導者は仕事や作業の計画を立てて命令や指示を与えている	3.6	3.7
5. 私は他の友人にこのクラブを自慢できる	4.0	4.2
6. 私がいないとメンバーが迷惑する	3.0	3.0
7. クラブの伝統を守る必要がある	3.9	3.6
8. みんなで仲良くやろうという意識が強い	4.1	3.9
9. 指導者はクラブのメンバーがルールや規定を守るように求めている	3.6	3.7
10. このクラブのメンバーとは話が合う	4.0	3.9
11. 私が休んだ時には他のメンバーが私の代わりをする	3.0	3.0
12. コンクールで好成績をあげることが求められている	3.6	3.8
13. このクラブは人間関係を重視している	3.7	3.3
14. 指導者はメンバーの遅刻や欠席に対して厳しい	3.1	2.6

15. 私はこのクラブに入ってよかったと思う	4.3	4.4
16. 私の能力や技術はクラブのために役立っている	3.2	3.3
17. 私はクラブの中で役割がはっきりとしている	3.6	3.4
18. お互いが友だちのような関係であることが必要である	4.0	3.5
19. 指導者はクラブのメンバーをみな平等に扱っている	3.9	3.6
20. 私はこのクラブの活動に満足している	3.7	3.9
21. 私の能力や技術を他のメンバーは高く評価している	2.9	2.9
22. このクラブでは自分の能力や技術を高めることが求められている	3.9	3.8
23. 私はお互いの仲が気まづくならないよう気を配っている	3.7	3.7
24. 指導者はクラブのメンバーの個人的な問題について気を配っている	3.3	3.4
25. 私はこのクラブの人間関係に満足している	3.5	3.6
26. 私は他のメンバーから頼りにされている	3.0	3.2
27. 指導者はクラブのメンバーから出されたアイデアや意見を積極的に取り入れている	3.8	3.6
28. 私はこのクラブの活動方針に賛成である	3.7	3.8
29. 指導者はクラブのメンバーの自主性を尊重している	3.8	3.7
30. このクラブのメンバーは魅力的である	4.0	4.0
31. このクラブから得るところは大きい	4.1	4.2
32. 一般的にいて私はこのクラブに満足している	4.2	4.2

4ポイント以上の項目は5、15、30、31、32で1996年と同じであるが、12年前はさらに8.〈みんなで仲良くやろうという意識が強い〉10.〈このクラブのメンバーとは話が合う〉18.〈お互いが友だちのような関係であることが必要である〉が入っていた。また3と18は今回5ポイント低くなっていた。つまり和気あいあいでもなく、友達関係でもなくよいと思うようになったことになる。12年の年月を経て合唱への取組みが僅かにクールになっていると見るべきであろうか。それとも今回の標本特性が前回に比べて年齢層が高いほうの割合が多いことの結果であろうか。いずれにしろ基本的には、自分のクラブに誇りを持ち、先生や友人に魅力を感じ、信頼しつつ、自分に対しては謙虚で、活動に満足している姿がうかがえる。

(2) 目的

合唱活動の目的を主として何においでいますか（複数回答可）について尋ねた。

	1996年	→	2008年
1. 音楽的教養を身につけ、人格を高める	107 (7%)	→	124 (12%)
2. 専門的な音楽に関する知識や、歌う（合唱する）技術を修得する	253 (15%)	→	128 (13%)
3. 友人を得る	276 (17%)	→	72 (7%)
4. (よい演奏をしたい) 合唱で創造活動に参加したい	311 (19%)	→	188 (19%)
5. よい作品や新しい作品と出会う	114 (7%)	→	122 (12%)
6. コンクール等で満足できる成績をあげる	90 (5%)	→	108 (11%)
7. 生活を楽しいものにして、思い出をたくさんつくる	372 (22%)	→	109 (11%)
8. とにかく一生懸命打ち込む	113 (7%)	→	110 (11%)

9. 余暇を有意義に過ごすため (N) → 38 (4%)
 10. 特に目的を意識していない 30 (2%) → 11 (1%)
 11. その他

【※上記項目右の数字は下記のパターン選択をばらした項目個数の和とその%、左が1996年、右が2008年、9は今回新しく加えた選択肢 以下 (N) とする。】

表3は、1人が同時に選択した項目パターンの選択数を用いたものである。

表3 目的に関する選択パターン

項目	選択パターン数
1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9.	38
1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8.	24
7	17
1	16
4	16
1. 2. 4. 5.	16
2. 4.	16
4. 6. 8.	16
1. 2. 5.	14
4. 8.	12
10.	11
1. 2. 4. 5. 7. 8.	10
1. 4. 6. 7.	10
2. 4. 5.	10
3. 4. 5. 6. 7. 8.	10
4. 6.	10

(注) 選択された項目をパターンごとに見ている

上記項目のうち9、10、11を除いてある程度のポイントが均等に入っているように見える。つまり目的としてあげられた項目はそれぞれに支持された。しかしこの結果を1996年と比較すると、少々変化が見られる。前回は7. 〈生活を楽しいものにして、思い出をたくさんつくる〉が1位であったが、今回は第5位、第3位だった3. 〈友人を得る〉が今回8位になっている。これは今回の標本特性によるものかかもしれない。〈よい演奏をしたい〉〈知識や技術の習得〉など、合唱そのものへの打ち込みが変わらずに顕著なだけに、前出の目的調査と同様、取組みの〈クール〉さが示されている。

(3) 悩み

現在の合唱活動の中で困っていることは何ですか。(複数回答可)

- | | | | |
|------------------------|---------|---|---------|
| | 1996年 | → | 2008年 |
| 1. 友人関係や団員同志の和がうまくいかない | 95 (6%) | → | 43 (4%) |

2. 発声法、歌唱法などがよくわからない	491 (33%)	→	318 (27%)
3. 読譜力の不足や音楽上の知識が不足している	364 (25%)	→	363 (31%)
4. 歌いたいと思う曲が歌えない	18 (1%)	→	43 (4%)
5. 学校、職場、家庭などの他の生活が忙しく、練習にあまり参加できない	143 (10%)	→	114 (10%)
6. 自分を含めて、自分の団があまり上手に歌えない	73 (5%)	→	37 (3%)
7. 団の運営が全体的にあまりうまくいっていない	0 (0%)	→	12 (1%)
8. 今、困っていることはない	228 (15%)	→	248 (21%)

【※上記項目右の数字はパターン選択をばらした個数の和とその%。以下紙面の都合上パターン選択データ数の一覧を省略】

「悩み」の58%（2+3）が発声法や読譜力などの技術的課題に関することである。1996年調査でもほぼまったく同様の結果であった。また8.〈今、困っていることはない〉が前回15%、今回21%の高得点であることは、合唱活動を「いろいろあるけれども、おおむねいいじゃないか」と、前向きに受け入れ楽しんでいる結果ではないかと思われる。

(4) 指導者（指揮者）の先生に何を期待しますか。（複数回答可）

	1996年	→	2008年
1. そのままでよい	866 (71%)	→	795 (77%)
2. 怒らないで優しく指導してほしい	19 (2%)	→	0 (0%)
3. もっと厳しく指導してほしい	128 (10%)	→	140 (13%)
4. 細かいことをあまりうるさく言わないでほしい	258 (2%)	→	0 (0%)
5. ほっと褒めてほしい	15 (1%)	→	19 (2%)
6. 全員に公平にしてほしい	39 (3%)	→	32 (3%)
7. もっと勉強してほしい	57 (5%)	→	44 (4%)
8. いろいろな相談に乗ってほしい	63 (5%)	→	17 (2%)
9. その他	18 (1%)	→	0 (0%)

【※上記項目右の数字は下のパターン選択をばらした個数の和とその%】

複数回答可であったがあまりいろいろなパターンは出ずに、指揮者（指導者）への全面的な信頼が寄せられている。3.〈もっと厳しく指導してほしい〉が今回13%で僅かであるが高くなった。

(5) レポートリーについて

(a) あなたが今最も興味を持っている合唱は何ですか。（複数回答可）

	1996年	→	2008年
1. 邦人作品	124 (9%)	→	796 (75%)
2. グレゴリオ聖歌	141 (11%)	→	10 (1%)
3. ヨーロッパの合唱曲 ルネッサンスバロック： （パレストリーナやバッハ・ヘンデルの作品）	249 (19%)	→	141 (13%)

4. ヨーロッパの古典派、ロマン派(例 モーツァルト、 シューマン、ブラームス)	86 (6%)	→	0
5. 近代現代の作品(仏の作品、ハンガリーや北欧の 作品、現代音楽)	54 (4%)	→	19 (2%)
6. ソウル、ゴスペル、ポピュラー、ミュージカル、 映画音楽等	425 (32%)	→	32 (3%)
7. 日本の民謡やわらべ歌による合唱曲	7 + 8 ÷ 49 (4%)	→	44 (4%)
8. 外国の民謡による合唱曲		→	17 (2%)
9. その他	198 (15%)	→	0

【※上記項目右の数字は複数回答のパターン選択をばらした個数の和とその%】

まず前回 425 個 (32%) を示した首位の 6. (ソウル、ゴスペルを含むポップ系) が、今回は 32 個 (3%) に激減した。前回 124 個 (9%) にすぎなかった 1. 邦人作品が今回は 796 個 (75%) と驚異的な率で首位である。標本特性は確かに変化している。しかし中学生の割合が大きく減じ、高校生および、一般の割合が増えている今回は、前回と比べて年齢層の高いほうが増えているわけである、むしろ選曲や好みは多様になっているはずと考えられるが、結果はまったく異なった。邦人作品の愛好者が際立って増加している。

(b) 合唱以外であなたが今興味を持っている音楽は何ですか。(複数回答可)

	1996年	→	2008年
1. クラシック音楽(ピアノ曲、室内楽、交響曲等)	556 (34%)	→	450 (42%)
2. ポップス、ニューミュージック、ジャズ、ロック等	914 (56%)	→	56 (5%)
3. 演歌等	36 (2%)	→	130 (12%)
4. 日本の民族音楽(沖縄やアイヌの音楽)	0 (0%)	→	140 (13%)
5. 世界の民族音楽	114 (7%)	→	78 (7%)
6. その他	0 (0%)	→	228 (21%)

【※上記項目右の数字は複数回答のパターン選択をばらした個数の和とその%】

ここでも 1996 年とははっきり違う傾向を見せている。クラシック愛好者がさらに増えている一方で、演歌や日本の民族音楽に支持が出ている。演歌はカラオケなどのレパートリーとして根強い人気があるし、この 12 年間に沖縄などの音楽が脚光を浴びたことも影響している。

(6) 満足度

現在、あなたの行っている合唱活動に対する満足度を非常に満足 5 から非常に不満 1 の 5 点法でつけるとすればどのくらいになりますか。

	1996年	→	2008年
1. 合唱団の雰囲気に関して	3.7	→	4.0
2. 選曲、プログラム等	3.8	→	3.9
3. 自分の進歩	3.0	→	3.2

4. 先生（指揮者）との関係	3.7	→	3.9
5. 友人（団員）との関係	4.0	→	4.0
6. 合唱団の全般的な活動状況 （出演するステージ数やその機会、その他の活動）	3.8	→	4.0
7. 合唱コンクール等への出場とその成績	3.5	→	3.6
8. 練習室や楽器等の設備の整備状況	3.3	→	3.7
9. 楽譜や音楽書籍など	3.3	→	3.9
10. 合唱団の財政や団費等の金額	3.1	→	3.6
11. 合唱活動を続けることについての家族の理解と応援	3.9	→	4.1
12. 合唱活動と日常生活とのバランス	3.3	→	3.7
13. 指揮者、副指揮者、ヴォイストレーナー、パートリーダー等の指導者陣について	3.8	→	4.0
14. 団長（委員長）、副団長（副委員長）をはじめ、マネージ等の人に対して	3.5	→	4.0

一番多いのは5の友人との関係である。

(7) 自己評価

質問文はあなたが合唱活動について、思っていること・行動・夢などの点から、次の項目について自身を評価するとどのようになりますか。非常に弱い（全くない）1から非常に強い（非常にある）5の段階で回答ください、であった。

表 4 合唱活動について思っていること

1. 自主性（自律性）	3.5	3.6
2. 趣味、好み	3.7	4.0
3. 知識	2.9	3.1
4. 技術（一人で歌う、アンサンブル技術）	3.0	3.0
5. なまけぐせ	2.9	2.8
6. 受動的	3.1	3.1
7. 専門意識（合唱について自分は経験豊かである）	2.5	2.8
8. 協調性	3.5	3.7
9. 異性とのコミュニケーション	N	3.0
10. 行動力	3.0	3.4
11. 深刻にならずにもっと軽く楽しくやりたい	3.5	3.5
12. 理解力	3.4	3.4
13. 集団帰属意識（自分はこの団の重要なメンバーである）	3.2	3.3
14. 生きがい（合唱は生きがいである）	3.6	3.8
15. 音楽全般への関心	4.0	4.1
16. 他のクラブ活動への関心	3.1	3.2
17. 同性とのコミュニケーション	N	3.9
18. 家族や友人あるいは社会から自分の活動への理解を求める	3.4	3.7
19. 充足感（充実感）	3.9	4.1

1996年と比較して、基本的にはほとんど変化していないのであるが、全ての項目で僅かにポイントが上昇している。下降しているのは5.〈なまけぐせ〉だけで、これはポジティブな方向への変化である。

第Ⅱ部 合唱するわたし

第Ⅱ部では「合唱するわたし」について第Ⅰ部より具体的な質問を試みている。合唱を始めた時期や動機、感動したことなどである。引き続きコンクール参加への評価も質問した。

(8) 合唱団活動の中で、あなたはどのような時に感動をしましたか。(複数回答可)

	1996年	→	2008年
1. 練習や本番のよい演奏ができた時（音楽に集中し、かつ無心に歌えた時）	526 (28%)	→	217 (28%)
2. いい音が鳴ったとき	(N)	→	122 (12%)
3. 演奏について、先生や友人から褒められた時	28 (1%)	→	73 (7%)
4. コンクールで良い成績がもたらえた時	260 (14%)	→	111 (11%)
5. 友人達と同じ目的に向かって努力している時・仲間との一体感を感じた時	223 (12%)	→	124 (13%)
6. すばらしい作品に出会い、よい演奏ができた時	291 (16%)	→	87 (9%)
7. 自分をもっとも気持ちよく歌えた時	289 (15%)	→	107 (11%)
8. 他の人達のすばらしい演奏に出会った時	214 (11%)	→	83 (8%)
9. 合唱の仲間とおしゃべりしたり、遊んだり、一緒に旅行したりしている時	38 (2%)	→	59 (6%)
10. その他			

さまざまな場面で感動しているが、やはり1.〈よい演奏ができたとき〉が首位である。褒められることはうれしいことに違いないが、「感動」の場面にはならないようである。

(9) あなたが合唱活動を続けている理由は何ですか。これからの活動に関する希望を含めて答えて下さい。(複数回答可)

1. 合唱を通じて音楽にかかわっていたいから（より深い音楽の表現や感動を体験したい）	450 (19%)	→	447 (22%)
2. 歌うことが好きで、技術も向上したいから	784 (33%)	→	685 (33%)
3. 団員や指導者と一緒にいたいから	301 (13%)	→	180 (9%)
4. よい作品にめぐり合い、よい指導者のもとで成長したいから	217 (9%)	→	250 (12%)
5. コンクールで自分の目標を達成したいから	156 (7%)	→	124 (19%)
6. 音楽を通して人間的に成長するために努力したいから	487 (20%)	→	371 (18%)
7. 指導者やヴォイストレーナー等将来合唱に関する専門的なことをしたいから	(N)	→	17 (1%)

なぜ合唱を続けるのか、それは勿論〈歌うことが好きで、技術的に向上し、より深い表現や感動を経験したい〉からである。〈音楽をとおして人間的に成長したい〉というジェネラルな目標に高いポイントが入っている。

コンクールについて

(10) 今の成績で満足ですか。

	1996年	→	2008年
1. 非常に満足	153 (14%)	→	243 (20%)
2. やや満足	372 (33%)	→	450 (37%)
3. どちらでもない	193 (17%)	→	173 (14%)
4. やや不満	299 (26%)	→	245 (20%)
5. 非常に不満	97 (8%)	→	89 (7%)

成績に対する満足度はそう変化していない。またこれまでのたくさんの質問にたいする結果も、このコンクール結果やその満足度とほとんど関りの無いところにあるようである。

(11) コンクールに対して疑問を持ちますか。

	1996年	→	2008年
1. はい	340 (26%)	→	382 (19%)
2. いいえ	963 (74%)	→	820 (81%)

疑問をもつ割合が少なくなっている。

(12) 疑問を持つ理由は何ですか。(複数回答可)

1. 音楽に点数をつけること	226 (61%)	→	153 (69%)
2. 練習が必要以上にきびしくなること	28 (8%)	→	0 (0%)
3. 集団内の雰囲気が悪くなること	0 (0%)	→	0 (0%)
4. 努力が結果に結びつかないこと	86 (22%)	→	80 (36%)
5. 競争が好きではない	(N)	→	45 (20%)
6. コンサート等の他の行事がもてなくなる	(N)	→	0 (0%)

音楽に点数をつけることには疑問を持っているようである。

(13) あなたは今後、合唱活動を通じてどのような体験をしたいですか。(複数回答可)

1. 優れた新しい作品にめぐり合うこと	519 (32%)	→	323 (30%)
2. 楽しく充実した演奏やコンクール等での目標達成	681 (42%)	→	215 (20%)
3. よい仲間と歌いたい	(N)	→	397 (36%)
4. 海外での演奏	(N)	→	23 (2%)

5. ワークショップやカンタータなど刺激に満ちた合唱経験	(N) →	9	(1%)
6. オーケストラとの共演	(N) →	45	(4%)
7. 慰問演奏などボランティア活動	(N) →	80	(7%)
8. その他	69 (5%) →	0	(0%)

今後への期待や望んでいることが両年でそれほど変化しているわけではないようである。今回新しい選択肢をたくさん入れたが、それらは多分1996年も〈その他〉の項目で表現されていたと思われる。3. よい仲間と歌いたいという新しい選択肢で支持が多かったのだが、これさえも前回2. 楽しく充実した演奏 に含まれていたと解釈することができる。

(14) 今後も合唱活動を続けていきたいですか。

1. できるだけ続けていきたい	723 (55%) →	578 (48%)
2. できたら続けていきたい	422 (32%) →	387 (32%)
3. 中断する、または止めてもっと他のことをやってみたい	127 (10%) →	206 (17%)
4. その他	40 (3%) →	45 (4%)

1 + 2で前回は87%今回も80%になった。しかし〈中断して別のこともやってみたい〉という要望も10%から17%に増えた。

(15) 合唱活動を通じての今後の夢は何ですか。

	1996年	→	2008年
1. 社会（人々）への奉仕	722 (56%)	→	49 (6%)
2. 世界の人々と歌う（国際交流）	(N)	→	47 (6%)
3. コンクールでの目標達成	422 (33%)	→	98 (13%)
4. プロになる	127 (10%)	→	13 (2%)
5. 自己実現	(N)	→	69 (9%)
6. より優れた演奏	(N)	→	153 (20%)
7. 常に新鮮な体験を求める	(N)	→	108 (14%)
8. もっと成長したい	(N)	→	228 (30%)
9. その他			

1996年の割合が100に満たないのは選択肢の変更によるものである。今回いろいろな表現の選択肢をおいたところ、それぞれが支持され、結局6、7、8の3項目で64%になっている。それに3のコンクールでの目標を合わせると、全体としてきわめて音楽の内容や課題に即した夢（目標、期待）を抱えていることが分かった。一方前回圧倒的な支持をえていた〈1. 奉仕〉は劇的に低い数字になっている。この12年間に「奉仕」がある程度実践されてきて、夢に数えられなくなったか、合唱活動と「社会奉仕」がうまく結びついていないようである。またこれからますます大切になると思われる〈2. 世界の人々と歌う〉という夢もまだ具体的なイメー

ジが広がっていないと考えるべきであろう。

考察

「合唱活動とわたしたち」として、東北の各世代の合唱人のさまざまな姿をアンケート調査によって明らかにしてきた。第Ⅰ部では合唱活動とそれに関する自分についての評価が主題である。ほぼ全ての項目で積極的で前向きに評価している傾向が見られる。しかも1996年、すなわち12年前とその傾向を比較できたことも大きな成果であった。いろいろな項目で11年前よりポジティブなポイントが高くなっている反面、人間関係への対応や、活動の力点について、むしろクールで個人主義的な方向への傾斜を見ることができる。また技術的課題への取り組みがより顕著になり、レパートリーについては邦人作品への特化が顕著である。多様性より、何かへの特化はそのグループの個性として評価される一方、どうしても音楽生活の狭さにもつながりかねない危惧を抱かざるを得ない。

第Ⅱ部では、「合唱するわたし」について第Ⅰ部より具体的な質問を試みることによって、合唱を始めた時期、動機などと共に、感動の瞬間など、貴重な資料的意味の高い結果が得られた。今回の質問紙のような質問に比して「音楽の音楽たる所以」は言葉の終わったところにその本質があるし、「感動」についても「感動のあまり言葉もない」とよく言われるように、その本質は「言葉」と次元を異にする。一方合唱は、99%言葉を伴った旋律や和声を、声によって扱うわけであるから、言葉との関係はより複雑化するわけである。しかしこの調査では、以上を踏まえたうえで、言葉を手段にした選択というアンケートによる結果を論じているが、量的処理による科学性と共に、当然であるがそこには限界もある。

第Ⅱ部の合唱を始めた時期や、初めての感動とその影響の調査でも示されように、小学生（多分高学年）から中学生の時期が、音楽的成長に如何に大切かがわかる。教育現場では今、ゆとりの教育がその成果を見る前に消え、ひたすら学力向上が大きな課題とされているが、その課題と情操教育や芸術教育の大切な関連はあまり語られていないように見受けられる。われわれ合唱にたずさわるものは、ひたすら実践を大切にするとすれば、小学校をはじめあらゆる学校教育の場で、またあらゆる社会教育、生涯教育の場で—確かに合唱の世界も他の芸術世界と同じように、一生をかけるに値するものがある—さまざまな創意工夫と共に合唱実践を積み重ねることこそが使命のように思われる。

さまざまな分野で流れが早く、効率や結果が即座に求められる傾向が強い現代にあって、合唱は成果の達成に多くの時間のかかる分野である。このような分野にあって、東北の合唱人は総体として極めて真摯に、設定した目標に向かって努力を重ねているのではないだろうか。

共に歌う仲間を愛し、誇りに思い、自分の音楽的技術的不足に悩みながら、さまざまな場面で感動を経験し、その経験をとおしてさらに前向きに取り組もうとしている。合唱は集団活動を必須の条件としているので、他の集団に比べて団員どうしの繋がりは強められるかもしれない。そしてその中で得られる喜びや、感動は、一緒にいる仲間が多いだけに、その分だけおおきなものになる。今回の調査からさまざまな声聞こえてきた。それらのひとつひとつの声に耳を傾けながら、共に歩み続けることが合唱にたずさわるものの、高価な終わりのない道であるように思った。

文献

社団法人 全日本合唱連盟 1997年 東北支部50年記念誌

(注)

本研究は、2008年度尚絅学院大学共同研究費（研究代表者 今井邦男）の助成を得てなされた。
アンケートに協力いただいた方に、感謝いたします。